



# 地域でともに幸せに暮らしたい

## ～知的・発達障がいのある わが家の子どもの子育て～

くろだ みえ  
黒田 美恵さん（そにとキャンプ親の会「もりびと」）



講座4では、そにとキャンプ親の会「もりびと」の黒田美恵さんに、「地域でともに幸せに暮らしたい～知的・発達障がいのあるわが家の子どもの子育て～」と題して、保護者の立場からの思いやかわり方についてお話しいただきました。

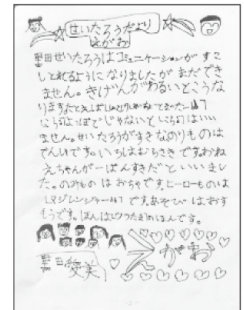
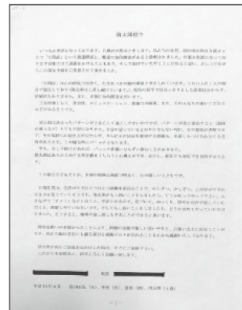
### ○入園前

〈黒田さんは〉

- 「家や施設にこもり、外の世界と触れ合わず、ご近所に迷惑をかけないように育てるのではなく、外に出て、ご近所に迷惑をかけたなら謝り、助けてもらったなら感謝するという育て方をしよう」と決める。そして、清太郎が4歳のときに「清太郎便り」を配付した。

〈地域の方は〉

- 民生児童委員の方や地域の方が、挨拶をしてくれるなどして声をかけてくれた。
- 子どもがルールを守れなかったり、ひっくり返って泣き叫んでいたりしても、温かく、優しく接してくれた。



〈清太郎便り〉

### ○入園後

〈地域で暮らしたいという思いから〉

- 人に子どものことをお願いするなら、まず親が普段から人の嫌がることを率先して引き受けた。（自治会・子ども会・PTAの役員など）

〈幼稚園でのお友だちやお母さん方とのかかわりのなかで〉

- 先生の支援の仕方を、子どもたちも真似をしてくれた。
- お友だちは、「一緒に遊ぼう」と声をかけてくれ、家を行き来するようになった。
- お母さん方に「清太郎便り」を配り、お母さん方は親子ともどものよき理解者、サポーターになってくれた。

### 『地域でともにくらすことで』

- 地域の皆さんに、困ったところだけではなく、良いところも感じてもらえた。
- ありのままの子ども姿を、地域の皆さんに理解してもらえた。



親子ともに、自己肯定感が育った。  
周囲の人とお互いに、良い刺激や良い影響を与え合うことができた。

### 【参加者アンケートより】

- 診断を聞きショックを受けられますが、少しずつ受け入れ、適応されていきました。この子のために何ができるのかと考え、地域へと発信していく黒田さんの行動力がすごいと思いました。
- 母としての強さ、弱い面などを赤裸々に聞かさせていただき、軽い言葉では書きあらわせません。人として深く考えさせていただき、これから保育をしていくうえで生かしていきたいと思いました。
- 最後の言葉の「一人ひとりの大切な命を輝かすことができますように」がすごく心に残りました。

